慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	西南文運史論(武藤長平著, 岡書店發行)
Sub Title	
Author	宮島, 貞亮(Miyajima, Teisuke)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.4 (1926. 11) ,p.169(629)- 169(629)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19261100-0170

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

西南文運史論（武藤長平著　岡書店發行）

最近南國研究熱熾烈となり、曩に柳田國男氏の「海南小記」、近くは川島元次郎氏の南國史話、及び此處に紹介せんとする武藤長平氏の西南文運史論等、この種の研究の續々公刊さるるに至ったことは、寔に學界のため慶賀に堪へぬところである。

本書の著者は、現に廣島高等師範學校の教授にして、其前久しく鹿兒島の高等學校に教鞭をとられた際、或は長崎、或は平戸等九州各地の名所舊蹟に採訪を試みられ、更に琉球に渡り、かくて九州地方に於ける文運發達の跡を考究され、其の成果は藝文、歴史地理等に發表され、學界の注意を牽いたのであるが、今回之等の論文は一纒にされ上梓さるるに至ったものである。

次に本書の收むる論題を擧げることにする。

「鎭西漢學史論」「鎭西洋學史論」「鎭西に於ける支那語學研究」「桂菴禪師と肥薩奎運」「薩南文教史略」「熊本藩文教瑣錄」「佐賀藩文教小志」「南豐文獻考」「平戸文運考」「久留米藩儒學の趨勢」「小倉藩儒學の梗概」「琉球訪書志」「崎陽訪古志」「薩藩刊書考」「薩藩の外國文明採集に就きて」「長崎と支那文化」「琉球の史的管見」「琉球群島通商沿革小志」「琉球の史的瑣談」「清朝人の琉球觀」「新井白石著『南島志』を讀む」「汪揖著『使琉球雜錄』を讀む」「張學禮著『使琉球記』と李鼎元著『使琉球記』」「那覇と其對外修交」「入琉册封使に就いて」「西陲及び南島の媽祖崇拜」「東京通事魏龍山遺寫本『譯詞長短話』に就いて」「藤原惺窩と薩摩」「伊孚九と長崎」「王文治と琉球」「九州諸儒の締交」「廣瀨淡窓と廣瀨旭莊」「島津齊彬公の片鱗」「松浦靜山公遺事」「平戸訪書雜記」「朝鮮俘囚の遺族」「西南文獻回顧錄」

かく本書の内容は廣く九州琉球に渡つてをり、長崎平戸に關するものは比較的少きも、琉球薩摩に關するものは多い。各篇、何れも、最も篤實なる研究、珠玉の文字にして、隨所に著者の卓見と蘊蓄とを感知し得る。

要するに、本書は南國研究の一大雄篇であり、一大指針であり而して貴重なる圖版に富めるは、錦上花を添ふるの觀がある。われらは著者の努力に對し、多大の敬意を表すると同時に、他日、西南文運史論の增大完成せんことを望んで已まない。終に臨み本書に誤植多きことの殘念なるを一言し擱筆する。（宮島貞亮）

島根縣史　五（島根縣發行）

本書は島根縣史の第五卷にして、國司が地方政治の首腦であつた國司政治時代、即ち大化改新より奈良平安時代を包含する時期の同縣の歴史である。第一章革新の機運、第二章大化改新の梗概第三章行政區劃と地名起原其範圍、第四章行政、第五章此期に於ける顯著なる史實、第六章出雲國造家、第七章產業の七章に分れ更に各章は多くの節に分れ、本文八百餘頁、附圖として多くの寫眞版を附せる彩大なる書であつて、編者の努力の如何に大なるかを思はせるのである。殊に地方史は鄕土の歴史ではあるけれども、また他方に於いて一般國史との關係をも顧慮せねばならず、或は